主観評価法レポート

現象観察　明るさの対比　古典的精神物理学　心理尺度の構成
大きさの恒常性　クラスター分析

コース

学生番号：

提出者氏名：

実験日：　年　月　日～　月　日

実験場所：

提出年月日：　年　月　日

	学科　学生番号　氏名　役割分担
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

1　まえがき

ここにまえがきを書く。研究の背景，および目的を記述する。

このテンプレートは，LaTeX 2ε 用である。LaTeX 2ε をインストールしていない場合は，インストールする必要がある。

LaTeX 2ε の使い方を体系的に学習するには，ランポート (1999) を読むとよい。奥村 (2017) には，LaTeX 2ε を簡単にインストールできる DVD-ROM が付属しており，便利である（この文は文献引用の例でもある）。手っ取り早く入門編を済ませたい場合は，

`https://texwiki.texjp.org/`

あるいは，

`http://www.tufs.ac.jp/blog/is/g/sodan/texman.pdf`

を参照するとよい。

文献引用の例をもう一つ示す (Licklider and Miller, 1951; Jones et al., 1990)。本文中に引用した文献は，全て末尾の文献リストに正確な書誌情報を記載すること。

2　方法

ここに方法を書く。第三者が実験を再現できるように書くこと。

2.1　小節の例

このように小節に分けて記述できる。たとえば，実験参加者，刺激，手続きをそれぞれ別の小節に分けて書くことができる。

表の例を表 1 に示す。あるいは，「〜が得られた（表 1)」のように表を参照することもできる。

表 1　低域通過フィルターの周波数特性の例。

周波数 (Hz)	利得 (dB)
100	0.0
500	0.0
1000	0.0
5000	-3.0
10000	-12.3

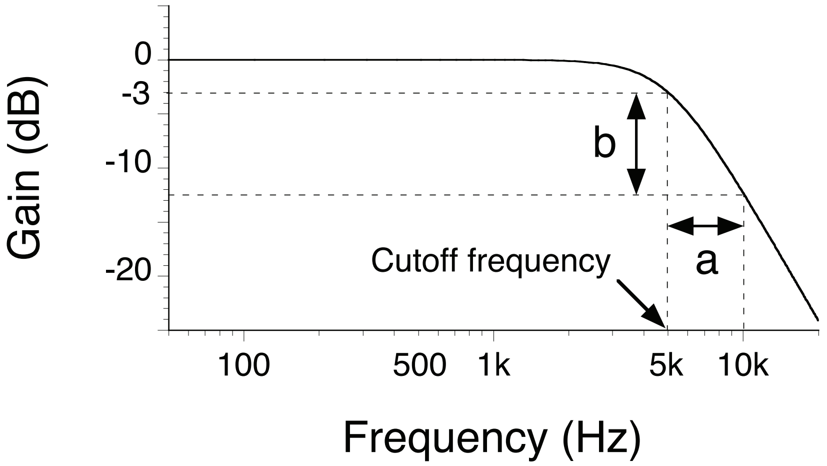

図 1　低域通過フィルターの周波数特性の例。 減衰傾度 (dB/octave) は b/a で定義される。Cutoff frequency は，遮断周波数のこと。

3　結果

ここに結果を書く。

図の例を図 1 に示す (図中の文字は単位等を除いて日本語表記で構わない)。図にはキャプションを付ける。

4　考察

ここに考察を書く。

文献

Jones, D. M., Miles, C., & Page, J. (1990). Disruption of proofreading by irrelevant speech: Effects of attention, arousal or memory? *Applied Cognitive Psychology*, 4, 89–108.

ランポート，レスリー (1999). 文書処理システム LaTeX 2_ε, 阿瀬はる美訳, 東京：ピアソン.

Licklider, J. C. R., & Miller, G. A. (1951). The perception of speech. In S. S. Stevens (Ed.), *Handbook of Experimental Psychology* (pp. 1040–1074). New York: John Wiley.

奥村晴彦 (2017). LaTeX 2_ε 美文書作成入門, 改訂第 7 版, 東京: 技術評論社.